

志賀原発付近に8本

活断層隠し 北陸電も
03年判明 公表せず

2007年12月19日(水)しんぶん赤旗1

北陸電力志賀(しか)原子力発電所(石川県志賀町)付近の海底に、原発設置の申請時には活断層とは評価されていなかった断層八本が活断層の可能性のあることが明らかになりました。北陸電力は03年に、このことを認識していましたが、今年十七日まで公表していませんでした。

北陸電力によると、同原発設置前に、四本の活断層が判明していました。褶曲(しゅうきょく)構造(地層の曲がり)の下に活断層がある可能性が指摘され、02—03年に海底地形の再評価をした結果、新たに八本、活断層の可能性が明らかになりました。

原発から十五キロの距離にある断層は、マグニチュード(M)6.8の地震を、二十キロの距離にある断層はM7.0の地震を起こすと想定されています。

北陸電力によると、これらの再評価結果について03年五月、経済産業省原子力安全・保安院に報告しましたが、原発の耐震安全性に影響を与えるものではないとして公表していませんでした。

今年三月に起きた能登半島地震(M6.9)も、同原発の設計時には想定されていない活断層による地震でした。

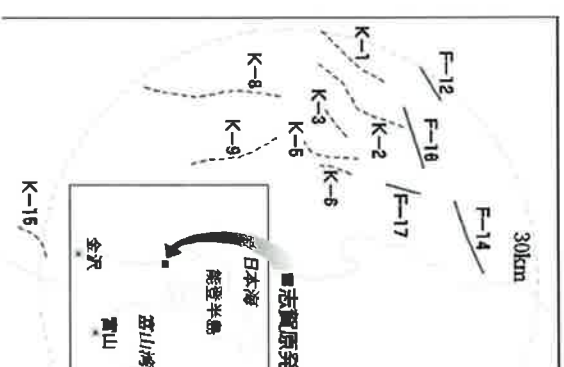
解説

国責任ですべて明かせ

原発付近の活断層の過小評価が大きな問題になっています。東京電力は今月初め、柏崎刈羽原発の設置許可申請時に活断層ではないとしていた同原発近くの海底断層を活断層と認めました。03年にはそのことが判明していたのに公表していませんでした。

02年に、原発の安全審査に関連し、活断層に対する考え方や評価の仕方などで新たな考え方が示されたのにもない、各電力会社は原発近くの断層の評価を02—03年にかけてやり直しています。東京電力も、北陸電力も、03年に再評価の結果が明らかになりながら新たな活断層についての情報を公開しませんでした。

原発をもつすべての電力会社が、同様の再評価をしているはずであり、「活断層隠し」が行われていないかどうか、国の責任で明らかにすることが求められます。(前田利夫)



志賀1号・2号機申請で考慮した活断層

番号	長さ	原発から の距離	想定される 地震の規模
F-12	7.5km	29.0km	M6.3
F-14	12.0km	24.0km	M6.6
F-16	11.0km	24.0km	M6.6
F-17	5.5km	19.0km	M6.1

03年に活断層の可能性が判明した断層

K-1	約11.0km	27.0km	M6.6
K-2	約16.5km	22.0km	M6.9
K-3	約7.0km	19.0km	M6.2
K-5	約9.0km	15.0km	M6.4
K-6	約6.5km	14.5km	M6.2
K-8	約20.5km	23.0km	M7.0
K-9	約14.5km	15.0km	M6.8
K-15	約7.0km	28.5km	M6.2

もどる

日本共産党ホーム | サイトマップ | しんぶん赤旗 | 著作権 | リンクについて | メールの扱いについて |

151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7 TEL 03-3403-6111 FAX 03-5474-8358 Mail info@jcp.or.jp

(c)日本共産党中央委員会